

令和3年度学校評価結果

R3年度 後期(12月)

アンケート項目番号	重点目標	評価の観点	(A評価を記載)	担当	3者アンケート結果			結果の考察	判定	評議員評価	今後の取組		
					評価者	A	B					A+B	
教1-① 児6 児7	授業 (主体的・対話的な授業)	「三角ロジック」を意識した話し合いを指導している 相手に伝わる声で話したり、自分の考えと比べて相手の考えを聞いたりしていますか 自分の考えをわかりやすく伝えていきますか。(三角で伝えようとしていますか。)	「三角ロジック」を意識して話す児童の割合(85%以上) 1-① できている⑥ できている⑦	研究 杉本	教師	42.9	42.9	85.7	三角ロジックは教師、児童とも意識できている。前期よりA評価が減少しているのは、伝える場合も聞く場合とも、教師側のより正確によりわかりやすくなるなどの要求から、それに十分達していないと思う児童がいるからではないかと思われる。	A	A	前期に引き続き、CD評価の児童に対してはどの程度までできているかを見極め、その段階に応じて個別に指導していく。誰かが書いたことや言ったことを覚えるのではなく、それを参考にして、自分の考えを書いたり言ったりできるようにしていく。	
					児童	44.8	51.7	96.6					51.8
					児童	44.8	48.3	93.1					A+B
					平均	44.2	47.6	91.8					92.1
教1-② 保2-1 児10	授業 (深い学びへの工夫)	深めの発問リーフレットを活用し「★思考を深める発問」を設定している。 お子さんは、授業が分かると言っている。 授業はわかりやすいですか。	授業の中で設定している(80%以上) 1-② できている③ できている⑩	研究 杉本	教師	28.6	71.4	100.0	深めの発問リーフレットの活用ができてきた。児童の授業はわかりやすいですかの肯定的評価が下がった。CD評価をつけた児童は理解に時間がかかる児童が多く、授業の中で完全に理解するのは難しいと思われる。	A	A	CD評価の児童に関しては、授業の中で理解できているか確認をし、授業の中で解決できるようにしていく。そのためには適用問題、振り返りなどを行い、児童の様子を把握し、必要であれば放課後学習などで補充していく。	
					保護者	41.4	44.8	86.2					
					児童	82.8	10.3	93.1					
					平均	50.9	42.2	93.1					
教1-③ 保4	基礎学力の確実な定着	朝学習を計画的に行うことができている。 学校は、計算や漢字等、基礎基本の定着を図るために授業の工夫を行っている。	児童自身がまとめや振り返り(適用問題)を行った授業(90%以上) 1-③ できている⑤	研究 杉本	教師	66.7	33.3	100.0	基礎基本の定着のために計画的に朝学習を利用している。	A	A	朝学習をパターン化して行っていることで、新出漢字練習や漢字テストを計画的に行うことができている。ミライシードの活用は、今の学年の復習もよいが、全学年の漢字や理科で学習したことを振り返るために使うのも効果的であるため、そのように活用できるように呼びかけていく。	
					保護者	41.4	48.3	89.7					
					児童	82.8	10.3	93.1					
					平均	54.0	40.8	94.8					
教1-④ 保6	学習規律の徹底	45分の授業時間を確保するタイムマネジメントを行っている。 学校は、子どもたちに正しい姿勢、話す・聞く態度など学習規律の指導を行っている。	確保している 1-④ できている⑥	研究 杉本	教師	71.4	28.6	100.0	タイムマネジメントや姿勢、態度などの学習規律を守れている。	A	A	学習規律の指導はしているが、なかなか身につかない児童も多い。姿勢に関しては、学習中だけでなく給食中でも声をかけ、正しい姿勢の意識をいつももてるようにしていく。	
					保護者	51.7	44.8	96.6					
					児童	82.8	10.3	93.1					
					平均	61.6	36.7	98.3					
教1-⑤ 保3 児9	考えを書かせる指導	「伝える三角」をもとに自分の考えを書く指導をしている。 学校は、考えを書く指導を行っている。 自分の考えをノートに書いていますか。	している 1-⑤ できている④ できている⑨	研究 杉本	教師	42.9	42.9	85.7	自分の考えを書く時には根拠や理由が必要であるということを理解し、ノートに書けるようになってきている。自分の考えをもてることはもてるが、友達と比べ十分でないと思っている児童がいると思われる。	A	A	根拠を明確にした文を書けるようになってきている児童が増えてきている。また、わかりやすい条件であれば条件に合った文も書ける。問題になるのは条件を読み取って文を書くことである。そのためには文章問題の問いで「何を聞いているのか」や「どのように答えて欲しいのか」という相手意識をもって答えられるようにしていく。	
					保護者	58.6	31.0	89.7					
					児童	62.1	24.1	100.0					
					平均	54.5	32.7	91.8					
教1-⑥ 保5 保2-2 児1 児2	家庭学習の習慣化	自学も含め、学年や個人に応じた(内容・時間)家庭学習の指導をしている。 学校は、児童が家庭で勉強する習慣が身につくよう指導している。 お子さんは家庭学習に取り組んでいる。 宿題を忘れずにしていますか。 家で学年×10分程度(1年生は20分、2、3年30分)の学習をしていますか。	している 1-⑥ できている⑥ できている2-① できている① できている②	研究 杉本	教師	83.3	16.7	100.0	宿題を忘れる児童は固定化されていると思われるため、個別指導が必要である。保護者のA評価が増えている。学校の取り組みが伝わっている。	A	A	宿題忘れに対してはこれまでも指導をしている。今後も粘り強く指導を続けていく。家庭学習の内容も工夫し、基礎基本の定着や読書の推進に努めていく。	
					保護者	51.7	34.5	86.2					
					保護者	55.2	31.0	86.2					
					児童	62.1	27.6	89.7					
					児童	75.9	17.2	93.1					
					平均	65.6	25.4	91.0					
教1-⑦ 児11	外国語活動の充実	「Can-doリスト」をもとに児童のつきたい力を明確にし、授業の中で評価を行う。 外国語活動では、習った英語を使って進んでコミュニケーションをとろうとしていますか。	90%以上の授業で行った 1-⑦ できている⑩	外国語 古田	教師	20.0	60.0	80.0	7月と変わらず「Can-doリスト」に沿って学習を進めたが、評価が落ちた。Unitが進むにつれて内容が難しくなり、習得に時間を要することが原因だと考えられる。	B	B	今後は「Can-doリスト」を基に学習計画を立てる際に、ALTと相談して児童にとって難しいと予想される表現の習得のための時間を設定することを意識して努めていく。	
					児童	41.4	48.3	89.7					
					児童	41.4	48.3	89.7					
					平均	30.7	54.1	84.8					

1 個に応じた指導の充実と学力の向上

教1-⑧ 児14	ICTの活用	1人1台端末などICT機器を活用している。 タブレットやパソコン、大型テレビで授業をするとうわかりやすいですか。	積極的に活用している(週1回以上) 1-⑧ できている⑭	情報 浜口	教師 児童 平均	33.3 72.4 52.9	66.7 10.3 38.5	100.0 82.8 91.4	一人一台タブレットにより授業の考え方が変化している。それによりタブレットの活用方法については模索していく段階にある。また、タブレットの使い方に慣れてきたため教師としても目的を絞ってタブレットを使用するようになってきた。今後またタブレットを使うのではなく目的をもって使用することを考えていきたい。	A		教師と児童共に、使いながら操作方法を覚えていく。ICTサポートを授業に活用することで、情報教育や機器の操作方法への理解を深める。また、授業の目的を意識したタブレットの使用を考えていく。
教2-① 保13	道徳科の授業の充実	児童が自らの成長を実感できるよう、研究の重点を意識した授業改善に取り組んでいる。 学校は道徳授業の様子を保護者に伝えている。	月3回以上は取り入れている 2-① できている⑭	道徳 野川	教師 保護者 平均	57.1 65.5 61.3	42.9 31.0 36.9	100.0 96.6 98.3	各学期に1回ずつ学級便りの中で道徳の授業について紹介できたことで、保護者にも学びの様子を伝えることができた。また、授業参観や学校公開でも保護者にそれぞれの学級の授業の様子を見てもらうことができた。教師も週1回の道徳の授業を大切にすることができた。	A A	A 56.0 A+B 92.7	保護者に対しては、来年度も継続して、学級便りでの道徳の授業の紹介や年1回の授業公開を行っていきたい。 また、職員に対しては、校外研修の内容を還元して伝えたり、授業改善について校内で研修したりできる場を設けていきたいと思う。
保8 保2-3 児4 保9 児8	基本的な生活習慣の確立	学校は、児童が早寝により睡眠時間の確保ができるための取組を行っている。 お子さんは早寝により睡眠時間を確保している。 早寝(10時前)・早起き(7時前)をしていますか。 学校は、食育や歯磨きなど、健康についての指導を行っている。 正しい姿勢で学習(生活)していますか。	できている⑧ できている2-③ できている④ できている⑨ できている⑧	保健 英	保護者 保護者 児童 保護者 児童 平均	58.6 27.6 69.0 79.3 27.6 52.4	37.9 48.3 27.6 17.2 41.4 34.5	96.6 75.9 96.6 96.6 69.0 86.9	睡眠時間を守って規則正しい生活ができている児童が多い。11月の保健指導で、姿勢について考えたり、指導される場面が増えたりして姿勢について意識するようになった一方で、児童自身の評価が低くなっている。	A		引き続きすぐくんチェックやメディア週間、生活目標の取り組みを通して個別や学年での現状を把握し、指導を行う。また、特に気になる児童には、休日や下校後の過ごし方について一緒に考え、保護者と協力して児童の生活を見直す機会を作る。 姿勢について、できているところを積極的に認めていく。
保2-6 児5		お子さんは約束を決めてメディアと付き合っている。 おうちのひとと相談し、約束を決めて、ゲームやテレビなどのメディアにふれていますか。	できている2-⑥ できている⑤	保健 英	保護者 児童 平均	31.0 72.4 51.7	41.4 13.8 27.6	72.4 86.2 79.3	0判定だが、前期より約9%高くなった。保護者も児童もメディアに関しての意識が高まってきている。	C		3学期からはノーメディア週間に月に1回実施して、さらに児童と保護者の意識向上を目指す。そして、結果や様子を積極的に発信して学校と家庭が連携して取り組んでいく。
教2-② 保7 保2-5 児12	あいさつの習慣化	どこでも元気に先あいさつをするよう指導している。 学校は、心を伝えるあいさつができる子になるよう取り組んでいる。 お子さんは家庭や地域でのあいさつを行っている。 気持ちのよいあいさつしていますか。(先あいさつ、目をみてあいさつ、元気のよいあいさつなど)	いろいろな場面で指導している 2-③ できている⑦ できている2-⑤ できている⑫	生指 古田	教師 保護者 保護者 児童 平均	66.7 58.6 58.6 82.8 66.7	33.3 34.5 31.0 13.8 28.2	100.0 93.1 89.7 96.6 94.8	保護者の評価が大幅に良くなった。2学期に行った生活目標の取り組みが効果的であったと考えられる。	A		今後も、学校での挨拶を家庭や地域でも行えるよう良い姿を認め、声掛けを継続していく。
教2-③ 保10 児13		いじめ等への対応	授業の中で、どの子にもよさを認める、ぬくもりのある指導をしている。 学校は、いじめや児童の問題などに、適切に指導・対応している。 なかよし班の仲間や友だちと仲よく助け合っていますか。	どの子の良さも認める指導をしている 2-③ できている⑩ できている⑬	生指 古田	教師 保護者 児童 平均	50.0 41.4 72.4 54.6	50.0 48.3 27.6 42.0	100.0 89.7 100.0 96.6	保護者、児童ともに評価が大幅に良くなった。道徳だよりでの人権教育の紹介やなんでも相談後やSCとの面談が影響していると考えられる。	A	A
保11	心の教育	学校は、地域の伝統や文化を大切にし、児童の豊かな心を育成するための取組を行っている。	できている⑫	生指 古田	保護者 平均	69.0 69.0	31.0 31.0	100.0 100.0	運動会での笠野つ子音頭やでんでこ太鼓発表会を通して、学校が地域の伝統文化を引き継ぐ心の育成を行っていることを保護者に発信できたことが今回の結果につながったと考えられる。	A		コロナウイルスの感染状況によるが、今後も安全面を十分に考慮した上で、児童が地域の伝統にふれる機会を設けていきたい。
教2-④	異学年交流	なかよし班活動を通して、児童の思いやりある心を育てている。	なかよし班活動にすすんで参加しており、児童の心も育っている 2-④	特活	教師 平均	62.5 62.5	37.5 37.5	100.0 100.0	運動会練習やバス遠足、日々の清掃活動等を通して高学年が低学年の面倒を自然と見ている姿がある。コロナ禍で活動に制限はあったものの概ね予定していた行事を行うことができ、縦のつながりを受け継いでいくことができた。	A		引き続き、なかよし班活動を継続して行っていくことで、下級生は上級生を見て育ち、よい伝統が受け継がれていくと思う。来年度に向けて、4、5年生がリーダーとして引っ張っていきよう、6年生を送る会などですすんで動く力を育てていきたい。
教2-⑤ 保2-4 児3	読書活動の推進	図書館利用計画に基づく活用を行っている。 お子さんは親子読書、週末読書など家庭での読書に取り組んでいる。 家庭で読書(親子読書、週末読書)をしていますか。	90%以上は活用している 2-⑤ できている2-④ できている③	読書 河本	教師 保護者 児童 平均	33.3 37.9 75.9 49.0	66.7 37.9 13.8 39.5	100.0 75.9 89.7 88.5	親子読書の協力の呼びかけで、月1回の親子読書は全校児童が行い、保護者の回答もAが増えた。一方、読書に取り組んでいないと感じている保護者の割合は変わらなかった。また、読書に取り組めなかった児童の割合が少し増えた。個別に読書の呼びかけをしていく必要がある。	B		家庭で読書に取り組んでいないと思われる児童の実態を把握し、個別に読書活動を呼びかける。担任は、各自の「私の本だな」の確認をし、週末読書や親子読書が確実に実行されるよう指導をする。全校児童で、「クロムブック・おすすめの本の紹介」の交流をする。全児童の年間の読書冊数を調べ、目標達成賞状を渡す。

2 豊かな心とたくましく生きる力の育成

教2-⑥ 児15		体力の向上	1校1プランを意識した運動（長座体前屈、持久走）を授業等で取り組んでいる。 進んで体を動かしていますか。	週2回以上取り組んでいる2-⑥ できている⑮	体育 浜口	教師 児童 平均	33.3 51.7 42.5	50.0 31.0 40.5	83.3 82.8 83.0	1校1プランを意識した運動は行えなかった。しかし、「外遊びデー」や週に1度の「石川スポーツチャレンジ」に取り組むことで運動をする機会を増やすことができた。だが、冬季中で気温も低いため進んで運動する児童は前期より減ってしまった。	B		体育委員会とともに1校1プランを意識した運動を取り入れる。例えば、学校に体力テストを行える場所を設置するなどしていく。「石川スポーツチャレンジ」は内容に偏りが出ないように、場所や内容を考える。
教2-⑦		自然とのふれあい	「自然ふれ合いタイム」や各教科における自然環境の積極的な活用。	学級で月2回以上の活用をしている2-⑦	教務 木田	教師 平均	50.0 50.0	50.0 50.0	100.0 100.0	ハチからの被害を避けるため、笠野の森に入れず、「自然ふれ合いタイム」が中止になる月があった。だが、機会を設けて自然と触れ合う活動を取り入れられた。	A		天候や自然環境の変化を考慮し、計画を立て実行していく。
教3-① 保2	3 家庭・地域と連携した信頼される学校づくり	地域に開かれた教育課程	保護者や地域人材を日常的な授業や行事、体験活動などで活用している。 学校は、保護者と連携・協力した学校づくりを行っている。	計画に従い活用している（90%以上）3-① できている②	教頭	教師 保護者 平均	62.5 55.2 58.8	37.5 41.4 39.4	100.0 96.6 98.3	引き続き、コロナ禍ではあるが、感染対策を行った上で、PTA委員会、資源回収などのPTA活動や避難訓練、学校保健委員会、歴史講演会、読み聞かせ、昔遊びなどの地域人材を活用する学校行事をほぼ実施できた。	A 59.8 A+B 97.7		現在、今年度2回目のまん防適用期間となっているが、今後も感染対策を十分に行いながら、カリキュラムマネジメントに基づいて、保護者や地域人材、行事、体験活動において、積極的に活用していきたい。
教3-② 保1		保護者・地域との連携	ホームページや通信、連絡帳等を通して学校の様子を知らせている。 学校は、教育活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	知らせている3-② できている①	校長	教師 保護者 平均	57.1 65.5 61.3	42.9 31.0	100.0 96.6 98.3	コロナの感染拡大が止まらない中ではあったが、感染対策をしっかりとって、学校行事を行うことができた。保護者にも来校いただき、子どもたちの様子を見ていただいた。学校HPや学校便りで学校の様子を随時伝えることができた。	A		今後もコロナ感染対策をしっかりとりながら、学校行事等を進めていき、保護者にも来校していただき、参観してもらおう。子供たちの頑張りが見られるように学校HPや学校便りを通じて保護者に伝えていく。
教3-③ 保12 保2-7		危機管理	危機管理意識を持って児童への指導を行っている。 学校は、避難訓練や交通安全指導など、安全管理への対応が取られている。 お子さんは安全に登校し、不審者や事故から身を守ろう気をつけている。	行っている3-③ できている⑮ できている2-⑥	教務 木田	教師 保護者 保護者 平均	77.8 58.6 41.4 59.3	22.2 37.9 51.7 37.3	100.0 96.6 93.1 96.6	消防署職員を招聘し、消火器を使用する体験型の避難訓練が実施できた。	A A		避難訓練の講評の中に、実際に起こった災害例を盛り込んで災害を身近なものとし、今後も年間計画に則り、避難訓練を実施していく。
教3-④	4 学校PDCAサイクルを意識した、組織的	取り組みの改善	PDCAサイクルを意識して取組を提案し、改善している。	提案、改善の取り組みをしている3-④	教務 木田	教師 平均	55.6 55.6	44.4 44.4	100.0 100.0	記憶が新しいうちに行事後の振り返りを記入するように、呼び掛けた。	A 61.1 A+B 88.9		前年度のふり返りをもとに行事に取り組み、C4thを活用してふり返りをまとめ、各担当者が職員会議で提案するサイクルを継続する。
教3-⑤		働き方	勤務時間を意識した効率的な働き方をしている。	1カ月の時間外勤務時間の平均が45時間以下3-⑤	教頭	教師 平均	66.7 66.7	11.1 11.1	77.8 77.8	1学期は行事などの関係もあり、十分な成果につながらなかったが、2学期は、先を見通してSSSをうまく活用しながら効率よく業務が行うことができた。勤務時間を意識した働き方をする職員が増えてきている。	C B		今後もさらなる業務の効率化の工夫・改善に努めるとともに、職員の意識改革を進め、勤務時間を意識した効率的な働き方を促していきたい。